

グループホームはまますなごみ
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197600380		
法人名	石狩市社会福祉協議会		
事業所名	グループホームはまますなごみ		
所在地	石狩市浜益区実田93-17		
自己評価作成日	令和2年2月1日	評価結果市町村受理日	令和2年6月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0197600380-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年5月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の前が温泉公園になっている為、春になると桜やこぶしの花が満開となり、利用者さんは毎年楽しみにしている一つです。民家が隣近所にはない為、2階に併設されている特養と合同で焼き肉、ジンギスカンを外で食べる事で食欲が増し普段とは違う雰囲気を利用者さんの食欲も増している気がしております。
浜益区は道内でも高齢化率が多い地域で入院後再び浜益に帰ってこられる場所でありたいと思います。
独居老人が多い為、最近では個室で自由に過ごせるという事も気に入ってもらえるようで、私達職員もつかず離れずを心がけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームはまますなごみ」は、石狩市北部の自然豊かな浜益区に立地する特別養護老人ホームを併設した1ユニット7名のグループホームである。1階のグループホームは広々とした共用空間で、居間の大きな窓から温泉公園の木々を眺めながら、ゆっくりソファで寛ぐことができる。壁には行事の写真や利用者の作品が掲示してあり家庭的な温もりが感じられる。管理者を中心に、自分の家と思えるような「なごみ」作りを目指すという理念に沿って積極的に地域の文化祭に貼り絵作品を出展したり催し物の見学に出かけている。また、浜益地区の「生きがいづくり学園」に利用者が入学して運動会や卒園式などにも参加している。小中学校との交流も継続して行われており、昨年も小学生が来訪して学芸会の出し物を披露したり、中学生と一緒に歌やゲームを楽しんでいる。管理者は、地域の福祉向上にも力を注いでおり、役所の依頼を受けて「福祉を知ってもらおう」という中学校で開催される講座の講師を務めている。職員の育成や資質向上にも前向きに取り組み、全職員に身体拘束の禁止行為についてテストをしたり、研修レポートを提出してもらうなど定期的な内部研修を実施している。管理者は、職員の意見や提案に耳を傾けながら一緒に話し合い、各利用者が笑顔で穏やかな日々が送れるように統一したケアを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者一人ひとりが自由に自分のペースで生活できるように心がけている。	利用者にとって、自分の家と思えるような「なごみ」作りを目指すという理念を掲げ、地域の一人として積極的に行事に参加している。ホールに理念を掲示し、職員は名札と一緒に携帯している。会議で理念を確認することもある。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区内民が集まる区内の行事には積極的に行き、顔見知りに出会える支援援助をしている。	小学生が来訪して学芸会の出し物を披露したり、中学生が訪れて一緒にゲームをすることもある。利用者が「地域の生きがいつくり学園」に入学して運動会に参加したり、文化祭の見学に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域全体が顔見知りの為気軽に認知症の方の特徴や行動を気軽に相談してくれる方が増えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	最近では自然災害についての取り組みや方法を話っており、委員会に元消防員がいるので避難訓練等で指導して頂いております。	事業所からの報告を中心に、災害対策や外部評価結果報告を行っている。家族の参加が少なくなっているため、電話連絡時などにも開催を案内し、意見を聞き取りながら会議に生かすことも考えている。会議録の送付は行ってない。	会議内容が分かるように、全家族に会議録を送付するよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各委員会の参加が市も積極的に参加されており、市の関わりも密接している。	管理者は役所の担当者と電話で話をしたり、新しい利用者の生活状況について情報交換している。役所の依頼を受けて、中学校で開催される「福祉を知ってもらおう」講座の講師を管理者が務めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会の中で施設内研修を実施し、職員一人一人の意識を高められているし、カンファレンスをするうえで拘束的意見は全くでない。	禁止の対象となる具体的な行為を記載した「身体拘束ゼロ」対策マニュアルを整備している。全職員に禁止行為11項目についてテストをしたり内部研修でレポートを提出してもらおうなど、理解を深めて拘束につながらないようなケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人ひとりが自覚を持ち、お互いに声を掛け合い、注意し合いながら気を付け仕事をしております。		

グループホームはまますなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ子供が多い時代の高齢者さんばかりなのでそのような事例はありませんがこれからは増えてくると思いますのでその時は支援していきたいと考えております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には一通り説明をし、分からない所があればその都度お答えしております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が希望要望を気兼ねなく言えるように日頃から利用者さんの様子を電話で連絡を取り合いコミュニケーションを取っております。	家族の来訪時や電話で利用者の状況を伝えながら、意見や要望を聞き取っている。「なごみだより」を毎月発行して写真などで利用者の様子を伝えたり、管理者が手紙で報告することもある。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の時間を短縮できるように職員間で意見を出し合い見守り、介助に時間を取るよう工夫しております。	管理者は会議や日頃のケアの中で職員の意見や提案を聞き取り、その都度職員間で検討しながら統一したケアに努めている。薬の調整や排泄面など具体的なことで話し合う機会も多くある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい様に意見を聞き入れ偏らない労働方法を工夫して行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員皆が資格等のレベルアップを目指すときは、皆で協力し勉強に励める環境整備をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	石狩市全体の管理者会議、職員交流の場が設けられている。		

グループホームはまますなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用する前に情報を聞き取り、入所前から職員間で共有しある程度の準備をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前から要望、希望を聞き入れるよう職員間で話し合い、本人や家族が納得して頂くように提案させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	例えば昼夜逆転のタイプなら他の利用者に迷惑にならないように端の居室で隣が耳の遠い方にするとかお互いに気を使わないように配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立が中心なので本人が出来る事はなるべく本人にして頂いている。私たちは声掛けをして手伝うという形にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	殆どが、区内に家族がいない方が大半なので、家族との連絡は怠りません。変わったことがあると一つひとつ確認しております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同じ部落の方で同年代は2階に併設されているあいどまりに入所しているので互いに合う事が出来る様になっている。	馴染みの方が訪ねて来る機会は少なくなっているが併設する特別養護老人ホームの方々と交流したり、地域の行事に出かけて顔見知りの方に会うこともある。職員と一緒に自宅を見に行ったり、地域のドライブを楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士おはじきをしている方も居れば、一緒にテレビを見て歌っている利用者さんもいる。		

グループホームはまますなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ギリギリまでGHIに入所しており、退所となると亡くなっている方のみなので、入院中は支援しますが亡くなった後は無いです。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんの意向思い等は関係性が出来るのと同様にわかってきます。後は信頼関係が出来るのと同時に話をしている中で話すことが多いと思います。	会話や表情、顔色などから思いや意向、健康状態などを把握している。6か月ごとにアセスメントシートを作成し、職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所までの経緯を家族の方に書いてもらったり、聞いたり、本人から聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所してすぐ位に見ていたらわかるのでその都度職員間で情報共有しております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来る事が出来なくならないように繰り返し出来る事を計画に上げる様にしている。	ケアプラン実績表に日々の変化と毎月の評価を記録し、介護計画の見直しに生かしている。全職員で評価をして、家族の意向を聞き取りながら介護計画書1表を6か月、2表を3か月ごとに作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	3ヶ月に一度のケアプラン見直しの時に担当者を決めしっかり気づきや変わった様子等を話し合う、又日々の変化もしっかり共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が遠方の方が多いので、病院は家族等が居住している所の要望があれば、指定の病院に受診したり、旦那さんが病院に入院して要望があれば連れて行くようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	春には桜、秋は紅葉と四季がはっきりしているの、散歩に声掛けするにはとても環境が良く、隣近所がないという事で外での焼き肉等は大変喜ばれます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に3回は往診に来て頂いております。年に一度レントゲン、心電図、採血と検査も行っております。インフルエンザ予防接種。各種予防接種支援	全員が協力医療機関の往診を受けている。専門医の受診は事業所に対応し、主治医と連携しながら適切な医療支援につなげている。希望に応じて、かかりつけの専門医の受診支援を行うこともある。往診、受診記録はパソコン上で管理している。	

グループホームはまますなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の様子を観察し変化があると、看護師に相談し受診、救急対応考えております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族等からある程度情報を聞いておくと、家族が分からない医療情報は必ず病院のワーカー、看護師に連絡をし利用者さんの様子等確認している。退院時出来るだけ行き、Drから話を聞くようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まず状況判断と本人が入院可能状態かを見極め、重度化した場合のシュミレーションは家族と話をしたりしております。利用者さんによっては入院生活が難しいと判断せざる負えない場合ターミナルケアも考えております。	「重度化対応に関する指針」に沿って利用開始時に看取り介護への対応も含めて説明している。主治医の判断の下、家族の希望に応じて看取りを行うこともある。看取りを行う時は、その都度内部研修を実施して個々に応じた対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を定期的に受講しているし、新しい職員が入ると出来るだけ行っ様に行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練の時から地域の方々と一緒にいる。施設内研修等も行っている。	併設の特別養護老人ホームと合同で、昼夜の火災を想定した避難訓練を実地している、うち1回は消防署の協力を得て地域住民も参加している。地震などの初期対応について、更に具体的なマニュアルを整備したいと考えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり、自由に生活出来るように居室に居たい方も居ればホールにてテレビを見たりと自由に声かけは最低限にする様心がけている。	利用者の呼びかけは「さん」づけを基本とし、本人の希望に沿った呼び方をする場合もある。申し送りは本人に分らないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちら側が察して自己決定できるように声掛けをしたり話を聞いたりその時々でそれが出来る様に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所時にどのように一日を過ごされていたのか細かく聞き入れ、又入所されてからどのように変わったのか日々職員同士話し合いその都度の対応を決定している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一日中着替えをしている方も居れば、洗濯したものをそのまま来ている方もいる。その人によってはこちら側で選んで着て頂いている方も様々です。		

グループホームはまますなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの嗜好品が入るようにその時々で考えて作っている。ただ中々一緒に料理をするのは難しく、誰も料理をしたがらない。	その日の食材を見て献立を決めている。誕生日にちらし寿司やいなり寿司を用意したり、時には外食に出かけている。手作り弁当を持って外出したり、外で流しそうめんを楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に水分摂取は気を付けていて、認知が進み水分も摂取出来ない期間がちらほらある方には点滴も実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本一日3回の歯磨きの声掛けしているが、しない方々食後の歯磨きは必ず全員にして頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけ車椅子、おむつにはせず、少しでも抱えても歩けるような方は職員2名でも連れて行きトイレで排泄できるように介助している。	パソコン上で全員の排泄状況を記録しパターンを把握している。ほぼ全員が自力でトイレに行くことができています。利用開始後の体重適正化によりトイレにスムーズに行けるようになった方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が一番気になる所です。繊維物、乳製品をなるべく摂取して頂いておりますが、中々排便が難しく、下剤の調整を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調に合わせて決められている曜日だけではなく、日中いつでも入れるように職員間で決めている。	毎週の月、水、金曜日を入浴日とし、全員が毎回午後に入浴している。広い浴室で一度に複数の方が入浴できるので、気の合う方同士で入浴して楽しんでいる。肌が乾燥しないような入浴剤を使っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠が出来る様に、夜間騒がしい方の隣には耳が遠い方にするなど気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	Drに確認しながら行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設内でも特養との合同昼食会・行事を行っている。又区内行事にも参加し顔見知りの方々と会えるように支援している。		

グループホームはまますなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	区内行事には滞りなく参加を心かけているし日々の散歩を促し、外に出る様に促している。	暖かい時期は、周辺の道路や向かいの温泉の中の公園を散歩している。浜益地区の文化祭に行ったり、地域の食堂にみんなで行くこともある。春は花見で戸田記念公園まで遠出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お店や使う所が無く、もめごとの原因になった事から所持金禁止です、ただお金がないと不安になる方は家族の了解を得て、無くなってもこちらが責任を取らないという事を決めております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を出したいという利用者さんもおります。その都度投函し切手代は利用料の時に一度に請求しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今の配置が現在入所している方々のベストと思われれます。又新しい利用者さんが入所してから変わるかもしれません。	共用空間が広く、居間の大きな窓から向かいの公園の木々を眺めることができる。居間に大きなソファがあり寛げるようにしている。壁には行事の写真や利用者の作品、歌の歌詞などを掲示し、楽しく過ごせる雰囲気としている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や窓際にもソファや椅子を配置しているので自由に座ったり利用者さん同士お話をしたり、おはじきしている様子が伺えます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にはそのように促してはおりますが、居室に居る時間の多い方は物が多く、ホールに居っぱなしの方は少なくなってきております。	居室にはそれぞれ洗面台とベッド、クローゼットが用意されている。その他、テレビや戸棚、家族の写真など、利用者が好きなものを持ち込んでいる。部屋の窓から周辺の畑、近くの山々の眺めを楽しむことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	後方に重心がある方の居室にはリハビリ棒を動線に置きバランスよくトイレまで伝って行けるように工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホームはまますなごみ

作成日：令和 2年 6月 27日

市町村受理日：令和 2年 6月 30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	自然災害に備えてのなごみ独自のマニュアルの整備。	特養と合同のマニュアルはあるが、更になごみ独自のマニュアルを作成する。	会議等で職員間で話し合い具体的内容を決定する。	9月
2	4	運営推進委員会を家族に知ってもらう。	運営推進委員会、会議録をなごみ利用者さん家族に送付する。	次回の運営推進委員会会議録から家族へ送付する。	コロナ終了後
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。